

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		国民体育大会開催事業				本年度担当課	国体推進課
						前年度担当課	スポーツ推進課
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	スポーツツーリズムの推進			市単独・国県補助	国県補助事業
	基本事業	01	スポーツツーリズムの推進			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法
	一般	10	05	01	国民体育大会開催事業		事業分類
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	平成27年度 ~ 令和4年度		市長公約
							総合戦略
根拠法令・条例等 国民体育大会開催基準要領							

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
○令和4 (2022) 年に栃木県で開催される第77回国民体育大会及び第22回全国障害者スポーツ大会において、本市の開催競技である、バレーボール (成年男子)、ラグビーフットボール (全種別)、デモスポ (クリケット、ドッジボール)、障スポバレーボール (精神障害者の部) の大会運営の準備を行い、両大会の開催を契機に市民スポーツの醸成やスポーツツーリズムを通じて本市の魅力を広げ、大会を盛り上げることを目的とする。				・各種事業の実施 (イベント、開催記念イベント、佐野市炬火イベント、花いっぱい運動、クワンゾウ運動、広報啓発活動等) ・R4. 5月 全国障害者スポーツ大会 バレーボール (精神障害者の部) リハビリ大会の開催 ・R4. 6月 国民体育大会 デモンストラションスポーツ (クリケット・ドッジボール) の開催 ・R4. 10月 国体 (ラグビーフットボール (全種別) ・バレーボール (成年男子)) の開催 ・R4. 10月 全国障害者スポーツ大会 バレーボール (精神障害者の部) の開催							
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				市実行委員会関係の会議回数	回		7	0	0	0	
				大会啓発・PR活動事業数	回		6	0	0	0	
				リハ大会・本大会開催回数	回		6	0	0	0	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
①市民 ②県民 ③競技団体 (バレーボール、ラグビーフットボール、クリケット、ドッジボール)				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				佐野市民	人	116,982	115,700	0	0	0	
				栃木県民	人	925,646	910,502	0	0	0	
				参加する競技団体	団体	0	4	0	0	0	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
国体本市開催競技実施を啓発し、大会等に関する協力団体・協力者を募る。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				実行委員会協力団体・事業者数	団体・	目標 実績	5 4	15 15	0	0	0
				学生市民ボランティア参加者数 (延べ)	人	目標 実績	0 0	200 195	0	0	0
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
スポーツ事業を支えるボランティア活動に参加してもらおう。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				スポーツボランティア登録者数 (スポーツ関係合計)	人	目標 実績	100 51	100 51	0	0	0

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	1,076	0	0	0	
	県支支出金	千円	0	51,468	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	34,700	117,623	0	0	0	
	事業費計 (A)	千円	34,700	170,167	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	170,167		
	人件費	職員従事工数	人工	5	11	0	0	0
	人件費計 (B)	千円	36,635	80,157	0	0	0	
	トータルコスト (A) + (B)	千円	71,335	250,324	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	国民体育大会開催事業	本年度担当課	国体推進課
		前年度担当課	スポーツ推進課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	・平成25年に平成34年栃木国体が内々定され、平成26～28年に各競技種目の会場地が選定された。本市においては、H26第1次選定においてラグビーフットボール全種別、H28第2次選定において成年男子バレーボール会場として内定を受け、施設整備も含めた具体的な準備が始まった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	・2019ラグビーワールドカップ、2020オリンピック・パラリンピックの機運をもちぎ国体につなげていく想定が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、オリパの1年延期など優先事項の変化が見られた。 ・「国体改革2003」により、大会規模の適正化（選手削減）、既存スポーツ施設の有効活用、企業協賛制度の導入などの改革が図られてきている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	・ラグビーフットボールに関しては、民間の応援団体の支援活動があり、国体に向けた盛り上げが期待された。国体開催の取組みが、スポーツツーリズム事業として期待され、これらの取組みなどを後世に伝える意義を求められた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	市を挙げて国体を開催する段階となり、実行委員会に付随する各専門員会を開催し基本計画に基づく要項・要領などの策定を行い、本大会は具体的に新型コロナウイルス感染症対策を含めて確度の高い大会運営・管理を行い実施した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
多くの市民の協力を得ながら、両大会開催で大きな成果を見出すことができた。開催後も、得た成果を次世代へつなぐレガシー事業を推進するため、佐野市スポーツ推進基金を創設した。今後の地域スポーツ・経済への良い波及効果が期待できる。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
本大会を実施し、スポーツに対する機運が盛り上がりを見せた。		各種イベントに対する啓発活動	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性				(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策			
目標達成度	大	○		事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。							
	中										
	小										
	大 中 小 成果向上余地										

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		スポーツツーリズム推進事業				本年度担当課	スポーツ推進課	
						前年度担当課	佐手 秀一	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01 スポーツツーリズムの推進				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01 スポーツツーリズムの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	05	01	スポーツツーリズム推進事業	事業分類	イベント等開催事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成26年度 ~			
根拠法令・条例等		佐野市スポーツ推進基本計画						

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
①市外スポーツ団体等に対し、市民利用との共存を図りながら、本市スポーツ施設を提供し、本市でのイベント、合宿等の実施を推進する。 ②市民や事業者と連携し、大会やイベントの実施、合宿等での域内消費額の増加や地域の活性化につながる取組みを推進する。					開催を支援し、盛り上げに貢献した主な大会							
					・石井琢朗杯選抜中学野球佐野大会5/14, 15, 22 運動公園野球場 ・SBIカップ (クリケット) 6/18, 19 国際クリケット場 ・BCリーグ佐野市民デー7/3 運動公園野球場 ・明治安田生命カップ (キッズサッカー) 12/10 国際クリケット場 ・FLV (バレーボール) 1/29 アリーナたぬま							
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					誘致などした大会、合宿数	事業	4	11	12	16	20	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
①国内居住者 (関東地方1都6県) ②市民、市内事業者					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					関東1都5県の人口		千人	43,561	43,535			
		市人口		人	116,982	115,700						
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
①市外の競技団体や事業者がスポーツ大会や合宿を本市で実施する。 ②市外からのスポーツを目的に本市に来てもらうことで、飲食や観光事業者の収益につながる。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					誘致などした大会、合宿数		事業	目標				
		市主催イベント等で関わる事業者		社	実績	4	11					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
スポーツツーリズムで施設の利用が増え、交流人口が拡大することで、経済効果が高まる。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					スポーツイベント等の市外参加者数		人	目標				
					実績	4,883	7,241					

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		200		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		200		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	200						
	人件費	職員従事工数	人工	0		0.41		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		2,988		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		3,188		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	スポーツツーリズム推進事業	本年度担当課	スポーツ推進課
		前年度担当課	佐手 秀一

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	佐野市総合計画・後期基本計画（平成26年度～平成29年度）に、リーディングプロジェクトである「スポーツ立市の推進」を新たに掲げ、本事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	第3期スポーツ基本計画において、総合的かつ計画的に取り組む12の施策の1つに、スポーツツーリズムの更なる推進がある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	大会実施に向け、関係者と協議しスポーツツーリズムに資する大会にしたい。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	大会実施会場の予約協力や企業への協賛依頼等を行い、大会実施のサポートを行なった。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
		成果向上余地がかなりある	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性				(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策			
目標達成度	大			* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。							
	中										
	小										
	大 中 小 成果向上余地										

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		さのマラソン大会開催支援事業				本年度担当課	スポーツ推進課		
						前年度担当課	スポーツ推進課		
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業		
	政策	02	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業		
	施策	01	スポーツツーリズムの推進			市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	スポーツツーリズムの推進			任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法	直営	
	一般	10	05	01	さのマラソン大会開催支援事業		事業分類	支援事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成17年度 ~		市長公約	該当なし	
根拠法令・条例等		さのマラソン大会交付金交付要領						総合戦略	該当なし

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
・全国からランナーを迎え、スポーツツーリズム事業として本市のPRとイメージアップを図り地域振興につなげる。 【大会概要】 ・実行委員会に交付金を交付し、市が主催・主管となって実施する。 ・参加者の多くは、市外から参加いただいていることから、ツーリズム事業である。 ・市は委員会事務局を担い、警察協議、大会開催PR、参加者募集、大会開催準備・運営の全般に携わる。				開催日：令和4年12月10日(日) コース：佐野市運動公園周辺 種目：5 <sup>キ</sup> コース・2 <sup>キ</sup> コース・2 <sup>キ</sup> 親子マラソン							
				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				会議開催日数	回	0	1	1	1	1	
競技種目数	種目	0	8	10	10	10					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
・マラソン愛好家 ・さのマラソン大会実行委員会				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				参加(申込)件数		件	0	940	1,500	1,500	1,500
				参加人数		人	0	1,227	2,000	2,000	2,000
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
・スポーツの振興及び参加者の健康増進 ・大会の円滑な運営 ・本市のイメージアップ				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				大会参加者の満足度(ランネット評価)		点	目標	80	80	80	80
							実績	71			
							目標				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致する				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				誘致できたスポーツ事業(大会、イベント合)		件	目標				
							実績	4	11		
							目標				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)		R4年度(実績)		R5年度(目標)		R6年度(目標)		R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		2,000		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		2,000		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	2,000						
人件費	職員従事工数	人工	1		2		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	7,327		14,574		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,327		16,574		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	さのマラソン大会開催支援事業	本年度担当課	スポーツ推進課
		前年度担当課	スポーツ推進課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年に安佐合併を記念し、3つの大会を一本化し、フルマラソンをメインとした大会を開催した。なお、ゲストランナーとして、松野明美選手を招待した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	マラソン大会は、ここ数年、乱立状態にある。したがって、特色ある大会が選ばれる傾向にあることから、日本陸上競技連盟公認取得を目指した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、全国各地の大会が中止を余儀なくされたが、徐々に復活している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	国民体育大会のレガシーとして、特色ある大会を目指してほしいとの要望はある。特にハーフマラソン・フルマラソンの実施について要望あり。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	台風被害や感染症の影響により、社会情勢が変化したことを鑑み、大会のあり方を見直す必要がある。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びつきが見直しの余地がある	市でなければできない	妥当である	人件費の削減余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	大澤駅伝競走大会支援事業 市民駅伝大会開催支援事業	成果向上余地がかなりある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
スポーツの振興は勿論であるが、おもてなしの心や本市のブランドを紹介することで、市のイメージアップが図れた。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
市民一人1スポーツの推進を図るため、いくつかの部門を設定し、幅広く参加者を募ることで、市民の健康増進、市のイメージアップ、さらにはツーリズム事業に寄与している。		公道を利用するため、多くの市民に声援をはじめ、運営等の協力をいただくことが重要である。その結果として、機運を上昇させる取組が必要である。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 国民体育大会のレガシーとして、大会のあり方を考える。具体的には、ハーフマラソンが実施できるよう環境整備に努める。	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、凋落した市民のマインドを上昇させる取り組みを要す。したがって、継続可能で選ばれる大会にするための発想を転換すること重要である。
	中	○			
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		クリケット活用地域活性化事業				本年度担当課	スポーツ推進課
						前年度担当課	スポーツツーリズム係
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	スポーツツーリズムの推進			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	01	スポーツツーリズムの推進			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業 区 分
	一般	10	05	01	クリケット活用地域活性化事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成29年度 ~		
根拠法令・条例等							

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)									
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)					
①クリケットをきっかけとしたスポーツツーリズムにより、地域経済への波及効果につなげる。 ②競技団体や市内事業者等と連携して、国際クリケット場が多くの人で賑わうようする。 ③クリケットをきっかけに様々な人材が本市に移住、定住する状況をつくる。				①インドコミュニティによるクリケット大会のSBIカップ、各国大使館選抜によるエンバシーカップ等、主な大会において大会の賑やかし及び市内経済関係者等と大会関係者等との交流会を実施した。 ②市民向けとして、ランニングバイクイベント、熱気球体験搭乗を国際クリケット場で開催した。また、キッズサッカー大会を誘致した。 ③クリケットをきっかけに2名の移住があった。					
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
		市外からの参加がある大会	回	4	8	3	3	3	
		クリケット体験会	回	10	14	40	50	60	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)									
①国内に居住者 (関東地方1都6県)		対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
②市民、市内事業者		関東1都6県の人口		千人	43,561	43,535			
		市人口		人	116,982	115,700			
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)									
①より多くの人々が国際クリケット場を訪れる。		成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
②クリケットをきっかけに移住する人が増える。		国際クリケット場来場者数		人	目標 実績	8,351	39,889		
		クリケット関連移住、定住者数		人	目標 実績	11	2		
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)									
市外からの誘客につながるスポーツツーリズムが発展し、地域経済の活性化につながる。		上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		クリケットを通じた域内消費額		千円	目標 実績	33,378	51,804		

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	4,000	0	0	0	
	一般財源	千円	0	5,162	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	9,162	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	9,060		
					役員費	102		
人件費	職員従事工数	人工	0	2	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	14,574	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	23,736	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	クリケット活用地域活性化事業	本年度担当課	スポーツ推進課
		前年度担当課	スポーツツーリズム係

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成28年度地方創生推進交付金の応募に応じ計画し、平成28年度に、事業にかかる検討・調査を行い、平成29年度から本格的な事業展開を図っている。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成26年12月にまち・ひと・しごと創生法が公布され、これに基づくまち・ひと・しごと創生総合戦略が策定された。ここでは、人口減少の日本においても活力を維持していくためには、人口減少克服と地方創生が重要と位置付けられた。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	・十分ではないが、一定の効果につながっている。 ・市民への認知度が不足している 等の意見がある。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	日本クリケット協会と連携し主なクリケット大会において市内関係者と大会関係者の交流会を開催できた。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務の一部を委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	クリケット国際交流事業		向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
主なクリケット大会において市内関係者と大会関係者の交流会を開催できた。			成果向上余地がかなりある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
クリケット場来場者数は、新しい生活様式に則り、クリケット大会等が行なわれたことにより、目標を上回ることができたが、クリケットを通じた域内消費額は、来場者の市内回遊が図られなかったため、目標を達成できなかった。		来場者の市内回遊が図られるよう、来場者（クリケッター）が求める情報の精査が必要である。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性				(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策			
目標達成度	大			事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 来場者（クリケッター）が求めているものを把握する必要がある。							
	中	○									
	小										
		大	中	小	成果向上余地						

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		大澤駅伝競走大会支援事業				本年度担当課	スポーツ推進課	
						前年度担当課	スポーツ推進課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 スポーツツーリズムの推進				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01 スポーツツーリズムの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	05	01	大澤駅伝競走大会支援事業	事業分類	支援事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和26年度 ~		市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 大澤駅伝競走大会運営費補助金交付要領								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)									
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
大澤駅伝競走大会実行委員会に補助金を交付し、大会を主催する。 (大会の内容) ・本市の生んだ偉大な長距離ランナー大澤龍雄氏の追悼行事として昭和26年から継続して開催 ・県内外より例年100チーム超が参加する。		大会名 : 第73回大澤駅伝競走大会 大会日程 : 令和5年2月5日(日) 大会会場 : 佐野市運動公園周辺 部門数 : 6部門							
		活動指標	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
		会議開催日数	回	0	5	5	5	5	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)									
・参加チーム ・大澤駅伝競走大会実行委員会		対象指標	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
		エントリーチーム数	チーム	0	146	150	150	150	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)									
・参加チームの増加、陸上協議の普及と競技力向上、さらには地域力強化		成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		市内からのエントリー数	チーム	目標	0	30	30	30	30
				実績	0	24			
		市外からのエントリー数	チーム	目標	0	120	120	120	120
実績	0			122					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)									
・各種スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致		上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		誘致できたスポーツ事業 (大会・イベント・)	件	目標					
				実績	4	11			
				目標					
⑤結果 (どのような結果に結びつきますか?)									

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)		R4年度(実績)		R5年度(目標)		R6年度(目標)		R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		700		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		700		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費								
					負担金、補助及び	700						
人件費	職員従事工数	人工	1		5		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	7,327		36,435		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,327		37,135		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	大澤駅伝競走大会支援事業	本年度担当課	スポーツ推進課
		前年度担当課	スポーツ推進課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和26年より郷土の生んだ偉大なランナー大澤龍雄氏の追悼を目的に始まった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	公道を使用するにあたり、許可が年々難しくなり、コース変更を余儀なくされている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	コースについて、市役所周辺や旧葛生町地内を望む意見がある。また、レベルの均一化のため出場資格制限も要望があり、検討課題である。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	コース設定は、毎回苦慮しているが、苦情や要望は増加傾向にある。今後は、大会の在り方も含めて、関係者で協議を続ける必要がある。また、運営体制の強化は課題となっている。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	人件費の削減余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
市内外へ大会案内を発信したことで、本大会の認知度が向上し、陸上競技の普及、競技力向上につながっている。			
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
大会を運営することで、本市の認知度が向上した。		市外からの参加チームが約7割強を占めることから、スポーツツーリズムの政策に活かしていくことが重要である。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 本事業は、ツーリズム面において大きな成果が期待されるため、受け入れ態勢の強化が必要である。	参加団体が増加することで、交通渋滞の解消や走者の安全確保が課題である。また、運営体制の強化も必要不可欠である。
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		関東小学生女子ソフトボール大会開催支援事業				本年度担当課	スポーツ推進課
						前年度担当課	スポーツ推進課
政策 体系	基本目標	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	02	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	スポーツツーリズムの推進			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	01	スポーツツーリズムの推進			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業 区分
	一般	10	05	01	関東小学生女子ソフトボール大会開催支援事業		実施方法
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和63年度 ~		事業分類
						市長公約	
						総合戦略	
根拠法令・条例等 関東小学生女子ソフトボール大会開催費補助金交付要領							

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
関東小学生女子ソフトボール大会実行委員会に補助金を交付し、関東小学生少女ソフトボール大会開催を支援する。				・開催日 : 7月22日(木)~23日(金)						
				・開催会場: 栄公園野球場						
				※新型コロナウイルス感染症の影響により中止。						
活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
参加チーム		チーム	0	0	30	32	32			
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
参加チーム		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
		参加チーム	チーム	0	0	30	32	32		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
・スポーツツーリズムの推進 ・本市からの参加チームの技術力向上		成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		本市参加チームの最高成績		位	目標	—	—	—	—	—
					実績	—	—			
					目標					
			実績							
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
スポーツ大会や合宿を誘致する。		上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		誘致できたスポーツ事業 (大会、イベント、		件数	目標					
					実績	4	4			
					目標					
					実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費								
	人件費	職員従事工数	人工	1		1		0		0		0
	人件費計(B)	千円	7,327		7,287		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,327		7,287		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	関東小学生女子ソフトボール大会開催支援事業	本年度担当課	スポーツ推進課
		前年度担当課	スポーツ推進課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和63年に第1回大会が開催された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	補助金・交付金については、減少傾向にある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特記事項なし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
大会が中止となったため、経済的波及効果を生むことができなかった。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、大会が中止となった。		本市を会場として大会を開催することで、技術力向上に繋がり、本市スポーツ振興に大きな役割があることから、引き続き、情報発信を繰り返すことが重要である。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 本大会を継続し、市民のスポーツへの関心を高めるため、本大会を継続することが、重要である。	年間を通して多くの大会が開催されており、予算や大会会場に限るがあることから、関係団体との調整が必要となる。
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		国際クリケット場維持管理事業				本年度担当課	スポーツ推進課	
						前年度担当課	スポーツ施設係	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 スポーツツーリズムの推進				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01 スポーツツーリズムの推進				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	10	05	02	国際クリケット場維持管理事業	事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成25年度 ~		市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 佐野市国際クリケット場条例、佐野市国際クリケット場条例施行規則								

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設の維持管理。</li> <li>・施設の修繕。</li> <li>・光熱水費、委託料等の支払い。</li> <li>・平成28年4月に佐野市国際クリケット場条例を施行し、呼称を「佐野市国際クリケット場」に変更、平成29年度より国際クリケット場維持管理事業。</li> </ul>				事業概要と同じ							
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				利用者数	人		19,000	20,000	21,000	22,000	
				修繕件数	件		4	3	3	3	
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民。</li> <li>・国際クリケット場</li> </ul>				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				人口	人		114,401	113,710	113,018	112,327	
				国際クリケット場	箇所		1	1	1	1	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が安全で快適に利用できる施設・設備環境の整備が図られる。</li> </ul>				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				利用者数	人	目標					
						実績	3,548	18,092			
						目標					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致、スポーツツーリズムを主体的に供用、市内施設での試合やイベント等により集客する。</li> </ul>				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				誘致できたスポーツ事業 (大会、イベント、スポーツツーリズムを主体にしたスポーツ施	件	目標					
						実績	4				
				施設	箇所	目標					
実績	2										

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		17,772		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		17,772		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	14,468						
					需用費	3,152						
				役務費	152							
人件費	職員従事工数	人工	0		2		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		14,574		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		32,346		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	国際クリケット場維持管理事業	本年度担当課	スポーツ推進課
		前年度担当課	スポーツ施設係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成25年4月、県立田沼高校が廃校になり、学校開放事業ではなくなったことから、運動施設として整備し、広く市民に活用してもらうため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	身近に環境の整った運動施設が整備されることによりスポーツ活動が盛んになる。 平成28年4月から国際クリケット場になったことで、クリケット以外の利用がほぼなくなった。 地方創生事業が終了したが、今後の利活用については検討中である。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	クリケットだけではなく、他のスポーツなどで多くの市民の方が利用できる施設となることが望まれている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	利活用方法の再検討

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びつくが見直しの余地がある	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	事業費・人件費共に削減の余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がかなりある	向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
コロナ過が治まり、多くの大会等が開かれた。また、クリケットだけではなく、グラウンドゴルフ等他のスポーツ等利用が増えている。			成果向上余地がある程度ある
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルスによる市外からの利用が減っていたが、感染拡大の鎮静化に伴い、また、対策を行うことにより、多くの大会等が開催されるようになり、一気に利用が増えた。また、利用促進のため、クリケット以外での利用も増えた。		クリケットの大会等で、選手、関係者だけでなく、観客等を増やしクリケット活用地域活性化事業などと連携し、誘客を図る。 クリケット以外での利用の促進。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	事業のやり方改善（成果向上の見直し）		新型コロナウイルス感染症の鎮静化 クリケット場の利活用方法	
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中			市外からの利用促進。 クリケット以外での利用の促進。			
	小						
		大	中	小	成果向上余地		